プレスリリース

平成２５年４月２４日
独立行政法人 森林総合研究所

国連　国際生物多様性の日 記念シンポジウムのお知らせ

「森の生きものと水とのつながり」

ポイント
- **国連が定める「国際生物多様性の日（5月22日）」に合わせて、記念シンポジウムを開催します。**
- **2013年の国際生物多様性の日のテーマ「水と生物多様性」にあわせて、森林に棲む生物と水との関係をいろいろな角度から考える講演を行います。**

概要

独立行政法人森林総合研究所は、早稲田大学環境総合研究センターと共催で、国連・国際生物多様性の日記念シンポジウム「森の生きものと水とのつながり」を、5月22日（水）に開催します。多数の皆様のご来聴を歓迎致します。

記

１．日時：　平成25年5月22日（水）13:00～17:00
２．場所：　早稲田大学小野記念講堂（東京都新宿区戸塚町1-103）
３．内容：　別紙のとおり
４．参加費：　無料
５．申込方法：メール（tayousei2013@ffpri.affrc.go.jp）にて事前登録

問い合わせ先など

独立行政法人　森林総合研究所　理事長　鈴木和夫
担当者　森林総合研究所　研究コーディネータ　小泉透
広報担当者　森林総合研究所　企画部　研究情報科長　秦野恭典
Tel :029-829-8130 FAX:029-873-0844

本資料は、林政記者クラブ、農林記者会、農政クラブ、筑波研究学園都市記者会に配付しています。

背景・経緯

国連は2000年の総会において、5月22日を国際生物多様性の日としました。この日を記念し、森林総合研究所では森林の生物多様性に関する研究成果を広く一般の方々にも知っていただくため、他の研究機関の研究者も交え、早稲田大学環境総合研究センターと共同でシンポジウムを開催いたします。

内容・意義

（内容）

世界を見渡せば、水不足や氾濫、水質劣化など、水問題は深刻ですが、その解決には水の源である森林への理解が欠かせません。また、水はあらゆる生命の源であり、豊かで清潔な水は健康で安全な人間の暮らしにも不可欠です。こうしたことから、国連は 2013 年を「国際水協力年」と定め、国際生物多様性の日のテーマも「水と生物多様性」が選ばれました。

森林と水、森林の生物と水とは切っても切れない関係にありますが、その関係は多様です。このシンポジウムでは、空から降った水を蓄える森林の機能、渓流沿いに茂る水辺林の特徴や水生生物との関係、さらには、現在日本の森林の姿を変えつつあるシカが森の水に与える影響など、いろいろな角度から、森林の生きものと水との関係をそれぞれの専門家がわかりやすく講演します。また、関連する分野の研究についてポスターも展示する予定です。

本シンポジウムは一般の方々、関連分野に従事される行政機関の方々、研究者を対象としています。森と水の切っても切れない関係をいろいろな生物の観点から見つめます。

みなさまお誘い合わせの上、ご来場くださるようお願い致します。

（意義）

講演を通じて、森林と生物と水とのかかわりをより身近な問題として感じていただけると思います。

別紙

国連　国際生物多様性の日記念シンポジウム　プログラム

「森の生きものと水とのつながり」

講演内容
１．水を育む森の力
坪山良夫（森林総合研究所　水土保全研究領域）

２．川と森をつなぐ－渓畔林の世界－
正木隆（森林総合研究所　森林植生研究領域）

３．川の魚は落葉で育つ
阿部俊夫（森林総合研究所　東北支所）

４．シカが増えると水はどうなる？
内山佳美（神奈川県自然環境保全センター）

■コメンテーター：
三浦慎悟(早稲田大学)、石澤尚史（林野庁）

■申込方法：
事前登録をお願いします。
登録用アドレス　tayousei2013@ffpri.affrc.go.jp

■詳細は以下のサイト「国際生物多様性の日記念シンポジウム」開催のお知らせにてご確認ください。
http://www.ffpri.affrc.go.jp/event/